<校務利用> ③学校運営にかかわる業務の支援

取り組みの概要：校内研修の際、グループ研修の提案授業では、全職員が参観できないため、実践が伝わりにくい。そこで、参観者が打ち込んだチャットから、授業のまとめを生成AI(Gemini)に作成してもらい、その内容を共有した。

取り組み

①授業者によるチャットの書き込み

スレッド フォロー中

(塚脇小) 11月20日, 13:59
子どもたちに考えさせる場は？

11月20日, 14:02
子供が考えようとした時に、先生が説明をしすぎます

②職員の共有

(塚脇小) 11月20日, 14:03
なんとか理解しようと板書を一生懸命見ている児童が多い。わかりたい気持ちはある

(塚脇小) 11月20日, 14:04 • 編集済み
こどもがわかりたい！と思っている＝つまづいているのは、
数直線の書き方使い方なのか、
もと 比べる量 の見分け方なのか、
あるいは、両方か？

11月20日, 14:07
何のための線分図？？
計算のため？
見てイメージを持ったため？

生成AIによる授業のまとめ

授業観察者のチャットより、生成AIが復元した授業内容 (Gemini) ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

授業のまとめ (5年算数)

授業の目的と内容

- 比べる量を求める問題を解くことを通して、割合の概念を深める。
- 線分図を用いて、問題文から必要な情報を読み取り、数量の関係を視覚的に捉える。
- 数量の関係を式に表し、計算によって答えを求める。

授業の特徴と工夫

- **ICTの活用:** Chromeブックや未来タッチを用いて、児童の学習をサポート。
- **協働学習:** 児童同士で教え合い、学び合いながら問題を解く。
- **視覚化:** 線分図を用いて、数量の関係を視覚的に捉えやすくする。
- **反復練習:** 計算練習や暗唱など、反復練習を取り入れることで定着を図る。

課題と改善点

- **導入:** 授業の導入部分で、児童のやる気を引き出すための工夫が必要。
- **個別の支援:** 理解が遅れている児童への個別指導が不足している。
- **説明の量:** 教師の説明が長くなり、児童が自ら考える時間が少ない。
- **まとめ:** 児童が自ら授業のまとめを行う機会が少ない。
- **線分図の活用:** 線分図の書き方や使い方を、より丁寧に指導する必要がある。
- **問題文の読み取り:** 問題文から必要な情報を読み取る力を育成する。

今後の展望

- **多様な教材の活用:** 教科書だけでなく、様々な教材を活用することで、児童の興味関心を高める。
- **グループ学習の活性化:** グループ学習の仕方を工夫し、より効果的な協働学習を実現する。
- **評価方法の多様化:** 多様な評価方法を取り入れ、児童の成長を客観的に捉える。

成果

- ・ 授業を参観していない人に、どんな授業だったのか容易に伝えることができた。
- ・ 授業者は、自分の授業を客観的に振り返ることができる。

課題

- ・ チャットの内容が少ないと、「一般的な授業のまとめ」になる傾向がある。